

2026年4月5日 池袋キャンドル集会 市民連合主催者あいさつ

こんばんは。市民連合の佐々木寛です。

ほんとうにたくさんみなさんが駆けつけてくださいました！嬉しいです！ありがとうございます！

私たち市民連合は、今から約10年前、明らかに憲法違反の内容を含んだ「安保法制」を政府が強行採決したことに抗議して生まれました。「安保法制」は、現在の政府による戦争準備への端緒を開いた法律です。今日は20代の参加者もずいぶん多いということなのですが(20代のみなさん、ペンライトを振ってみてください！)、その皆さんが10代の頃です。ちょうど今日のように、「これはいくらなんでもおかしい！」と感じたたくさんの市民が国会前に集まって抗議の声をあげました。市民連合は、その声を国会に届けるために、戦争法の廃止をすべての立憲野党に訴え、全国で市民と野党の共闘を実現してきました。去年の参院選挙で戦後はじめて与党が衆参両院で少数になった背景にも、この共闘の努力がありました。今日も、みなさんの声を聞き遂げるために、すべての立憲野党のみなさんが、ここにそろっていらっやっています。

今、この国は、誰もが望まない戦争へと向かっています。みなさんもお気づきのよう、行き詰まった政治権力が、世界中で戦争に手を染めつつあります。支配層にとっては、戦争は国内の矛盾をごまかし、国民の注意を外に向けるだけでなく、戦時の支持を調達し、また戦争産業から多額の見返りを受ける有効な手段です。しかし、みなさん。もうわかりますね。戦争は、常に支配層ではなく一般市民の生活や生命を破壊します。現代の戦争で犠牲になるのは、つつましく生きたいと願う、普通の生活を望む一般市民に他なりません。

トランプ大統領は、これからのさらなる攻撃でイランを「石器時代に戻す」と言いました。これはヒロシマとナガサキに原爆を落とし、またベトナム戦争で空爆を指揮した有名な軍人カーチス・ルメイの言葉です。イスラエル軍と米軍の攻撃によって、すでにイランで約2000人が亡くなり、小学校や多くの生活インフラも爆破され、中東の子どもたちだけでなく約350人が犠牲になっています。一人ひとり名前や家族のある子どもたちはなぜ死ななければならなかったのか。みなさん。ご存知のように、この戦争には何の大義もありません！トランプもネタニヤフも、過去の無数の死者の上に築かれた歴史の叡智や国際法を踏みにじています。自分の権力維持と野心のためだけに、弱い人々の命や尊厳を犠牲にしています。

しかも、この戦争は、私たちの生活も破壊しつつあります。戦争は終わらないでしょう。アメリカは終わらせ方を知らず、イスラエルは最後まで戦争を続けるつもりです。そして、ふたたび世界を侮(あなど)ったアメリカは、ベトナム、イラク、アフガニスタンに続いて、必ず敗北すると思います。しかしその間、潤うのは戦争で金儲けをする一部の人々だけで、世界経済も私たちの生活もボロボロになってしまう可能性が高くなっています。化石燃料に依存し、そのほとんどを中東に頼る私たちの日本社会は、ガソリンだけでなく、一夜のう

ちに、医療や食料でも危機を迎えるようになるでしょう。

そんな折、日本政府は何をしているのでしょうか。世界秩序を破壊し、後片付けもできないトランプを、「世界中に繁栄と平和をもたらす」とお世辞を言うだけで、中国にケンカを売り、着々と敵基地攻撃能力を配備し、平和憲法を改悪しようとしています。高市総理は、いったい何を守ろうとしているのか。何を実現するために総理大臣になったのか。もう、幼稚な戦争ごっこはやめていただきたい！

これまでのように、アメリカ政府の意向に従うだけでは、国民の生活や安全を真に守ることはできなくなっています。私たちは、新しい時代を切り拓かなければなりません。新しい平和外交、そして沖縄や周辺地域を犠牲にしない新しい安全保障政策を編み出さなければなりません。確かに困難な道ですが、それは決して不可能ではないと思います。先の戦争で、300～400万人の日本人の犠牲、数千万人のアジアの人々の多大な犠牲の上に、「もう絶対に戦争はしない！」という決意を謳った日本国憲法が生まれました。憲法はその困難な道を、平和を願う諸外国の市民と共に歩め、と私たちに命じています。

今夜、ここにいるみなさんは、まさにその「決して戦争に組(くみ)しない！」という先人たちのメッセージを受け継いでいます。そして今、戦争に向かおうとする政府の前に立ちだかる市民は、この池袋だけでなく、今日も全国約 20 か所で声を挙げています。私たちはその全国の声ともつながっている。そして、その反戦を求める声は、世界中にも広がっています。つまり、私たちは世界ともつながっています！

歴史を創るのは、いつも今ここに立っているような私たち「民衆」に他なりません！憲法にも明記されているように、戦争に向かう政府を止めるのも、個人の尊厳や自由を守るのも、民主主義や希望を創り出すのも、主権者である私たち自身です！

みなさん。「信じられる未来」を、共に創りましょう！

ありがとうございました。